

松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第37号

発行 平成 21 年 9 月 25 日

長寿の秘訣

気は長く 心広かれ

今年の夏は梅雨のような陰鬱な

天気が続きましたが、季節は確かに巡り秋の訪れを感じるようになりました。空気は澄み、月は冴え、気持ちも浄化されるようです。まさに季節が移ろうなか、私たちもその天地の間に生かされていると感じられます。

中国は宋の時代の真山民（しんさんみん）は、「山中月」という詩のなかで次のように詠っています。

我が心本月の如く

月も亦た我が心の如し

心と月と両つながら相照らし

清夜長しえに相尋ぬ

自分の心はもとより月のようであり、月もまた我が心です。心と月がお互いに照らし合って、清らかな夜にいつまでも心の会話を続けていく情景が目に見え、清らかな心と自分の心をつなぐようにして受入れ、その豊かな心を詠

んだ詩だと思っています。

豊かな心といえば、天台宗の僧侶で徳川家康から三代家光まで仕えたという天海は、大変な長命だったと言われていますが、長寿の秘訣を「気は長く、務めはかた



▲インドはブッダの時代に栄えた王舎城の南城壁跡。ブッダはここで、バラモンから非難されるが、「真理を知る人が誹謗を堪え忍ぶなら、その人にこそ勝利がある。」と、広く大きな心を持つことを説いた。

く、色薄く、食細くして、心広かれ」と言ったそうです。気を長く持ち、広々とした豊かな心で人に接するということは、今の時代こそ通用する長寿法でしょう。

さらに、豊かな心で人に接してきた人といえば、今は亡き映画評論家の淀川長治さん（兵庫県出身）が有名です。淀川さんは、自分の人生観について「私はいまだかつて嫌いな人に会った事がない。好きになる事がどんなに人を助けるか私は知っている」と生前

によく言われていたそうです。人の短所や欠点ばかりが気になるところですが、淀川さんは人の長所を見ることにその人生観を重ね合わせておられたのでしよう。人の長所を見るところは、自身自身が広く豊かな心を持つことです。人の長所を見ることにより、やがては自分の長所として身につくようになります。これが、長寿の秘訣なのです。

台風9号朝来市も被害甚大

教区内の寺院のほか花園会員宅164件が被害

最近の天気は、極端な状況を起こしやすいように思えてなりません。風が強かったり、集中的な大雨になったりと、これも地球環境の悪化が引き起こしているのでしょうか。百年、いや50年に一度起きる災害とはもはや言えなくなっています。

今回、台風9号の接近に伴う大雨は、8月8日から10日にかけて日本各地において大きな被害をもたらしました。とくに兵庫県では佐用町や朝来市で甚大な被害を被っています。妙心寺派山陰東教区内である旧朝来町では、全壊あるいは半壊をはじめ床上・床下浸水を含めると、164件余りの花園会員(妙心寺派寺院の檀家)が被害に遭われました。寺院では、朝来市佐囊にある眞如寺様では本堂裏から土砂が堂内に流れ込んで大変な状況にあります。また、無量寺様(朝来市八代)も土砂災害を、青蓮寺様(朝来市羽

測)では境内駐車場への土砂流出、祥雲寺様(朝来市田路)では境内駐車場と本堂書院への土砂流出などの被害を被りました。善晃院(朝来市立野)の檀家さんは、避難途中に濁流に流されてお亡くなりになりました。お亡くな

松禪寺本堂裏などからも水が出ました



▲本堂裏側の土手からも大量の水が流れ出ました

りになられた皆様に対し心よりご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご遺族様と被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。この災害により、8月25日に大本山妙心寺からは花園会本部長・林学道師らが現地を訪れ被害の状



▲隠寮裏側も水が流れ出し、土手が崩れつつあります

況を見て回られ、お見舞いと激励をいただきました。また、妙心寺山内は靈雲院の則竹秀南老師からも山陰東教区宗務所へお見舞い金と物資を頂戴いたしました。いずれにしても、一日も早い回復をお祈りする次第です。

なお、松禪寺付近でも大雨がもう少し長く続いていましたら、同じような被害を被っていたかもしれません。本堂裏の土手からは普段は水気のない処から水が噴き出し、霊園付近も流れ出た水で斜面がえぐられました。付近の道路には土砂が流れ出て、田畑にも多くの土砂が入り込みました。栗尾区内では、2軒の花園会員住宅の床下に水が流れ込みました。気候不順の折から、この台風被害でお盆どころではなかったというのが実情でしょう。

今回の朝来市の甚大な被害に対して、教区内寺院では教区宗務所が窓口となって義援金を募ることになり、松禪寺護持会計から協力させていただきました。この義援金の使途は甚大な被害を受けられた眞如寺様へ届けられる予定です。

松禪寺の什器

殿鐘(でんしょう)

禪寺の行事等では、いろいろな鳴らし物によって事が進みます。その鳴らし物の一つに殿鐘があります。本堂の廊下に吊るされています。大きさは直径約31・5cm、

高さ約50cmの釣鐘で、鐘の外側には次のように刻まれています。

「梵音海潮音
勝彼世間音
是故衆生念
念念勿生疑」



▲本堂の廊下に吊られた殿鐘

7月7日に制作されたことになり、今から約266年前の鐘で、現在の地に松禪寺が移ってから約80年後に作られたことになりました。また、薬師堂の表にも殿鐘が吊られています

観音經というお経のなかの一文です。「仏の住む清らかな天の聲、広大な海鳴りの音。彼の世間には優れた音があります。この故に衆生は念ずるべきです。一瞬一瞬、疑いを生じてはなりません。」という意味です。

「大日本國但州路

出石郡栗尾邑

石室山松禪寺

常什器

現住周育誌

干時 寛保三癸

亥

夷則初七

この殿鐘は、松禪寺第六世の住職である古外周育座元禪師が、寛保3年(1743年亥年)の陰曆

が、これは栗尾の地にかつてあったと言われる實相禪寺の鐘で、天保12(1841年)に村中の寄進で作られたと刻んであります。

この殿鐘のほか、寺にはいろいろな鳴り物がありますが、それらは全てお寺での行事の合図として鳴らされます。この殿鐘は、法要などの時に和尚さん方に袈裟をかけて準備してくださいという合図や、支度ができたので本堂へ出頭

先祖を敬い今ある命に感謝して

秋彼岸法要を執り行いました

してくださいという合図などに今も使います。「一日一度は静かに坐つて、身(からだ)と呼吸と心を調えましょう」と生活信条にあるとおり、余計なおしゃべりは他の人の邪魔にもなります。そのため、このような鳴らし物によって合図をします。古の音、今もそれを受け継ぐ鐘の音に耳を傾けてみてください。



本堂で皆さんと一緒に読経しました

秋彼岸の中日会を9月23日、松禪寺で執り行いました。例年の通り朝8時から当番さんによる食事作りが行われました。秋の恵み、自然の恵みをたくさん詰め込んだ、おいしい弁当に仕上がりました。

約30人の皆さんのお参りがあり、午前11時過ぎから本堂で皆さんと一緒に彼岸法要を執り行いました。法要後は、当番さん手作りのお弁当をいただきました。実りの秋と、今ある命に感謝する法要でした。

境内地の静寂に心やすらぐ墓地

松禪寺霊園のご案内



松禪寺霊園の使用者を募集しています。お寺の境内地ですので、維持管理はお寺が行います。駐車場のすぐ側にありますので、足の悪い人、車いすを使用される人も安心してお参りできます。

松禪寺の檀家、あるいは今後檀家になっていただける人を対象にしています。お問い合わせ、使用ご希望のご相談は、松禪寺か総代役員にお願いいたします。

本山花園会本部より 栄寿のお祝い

今年も妙心寺派花園会本部より、米寿（大正11年生れ）を迎えられた檀信徒の皆さん4名の方々に、お祝いの表彰状と輪袈裟が届けられました。

お家に長寿の方々が居られるの

は家庭和楽のもとであり、一家繁栄の瑞兆とお祝い申しあげる次第です。ますますのご長寿を保たれるよう願ってやみません。おめでとうございます。



大蛇？

クネクネとよく曲がったものですね。藤田優さん（栗尾）が届けてくださいました。一本のサツマイモが、まるで蛇がとぐろを巻いたかのように見えます。さっそく和尚のブログのネタにさせていただきますました。秋の実り、こんな楽しみもありますね。

達磨忌を営みます



れています。

また、松禪寺は来翁祖諱（らいおうそじゆん）和尚大禪師を開基として、禪師の師である一笑禪慶（いっしょうぜんけい）和尚大禪師を勧請開山としています。10月20日を忌日としております。

この達磨忌と開山忌を次のお通り執り行いますので、ぜひお参りください。

とき 11月3日（火）

午前11時より法要

正午齋座（けんちん汁）

場所 松禪寺本堂

※恐れ入りますが、炊事当番さんは午前8時にご来山ください。

来る11月3日（火）、松禪寺では達磨忌と開山忌を営みます。達磨大師は、禅宗の開祖です。南インドの小国の王子として生まれ、後に出家して菩提達磨と名を改めます。禅を伝えるために中国に渡り、洛陽の少林寺で面壁して坐禅すること九年に及んだと言わ